

SQUARE DANCE

初めてシリーズ②

初めてのビギナー講習

Japan Square Dance Association

一般社団法人日本スクエアダンス協会

人材育成委員会

「初めてシリーズ」は、スクエアダンスを始めてまもない方々が、より充実したダンス活動ができるよう、スクエアダンスの楽しみ方や、クラブ運営の基本をまとめたものです。

皆で楽しむクラブの運営のあり方や、仲間の増やし方、クラブのアニバーサリーの開催の仕方、仲間の情報交換・記録のための会報作り、パーティーでのマナーや、初めて着るコスチュームのことなど、活動にあたって知っておいていただいた方が良いことを、初めて経験する方にも解りやすくまとめています。

どうぞ、皆さまのクラブでご活用いただき、これからのスクエアダンス活動にお役立て頂ければ幸いです。

初めてのビギナー講習

クラブを設立し、運営が軌道に乗ったら、会員の増強を図らねばなりません。もし、会員を募集しなければ、クラブは停滞し、会員も徐々に減少することを覚悟しなければなりません。スクエアダンスの楽しさを多くの人に知ってもらい、クラブの活性化を保つためにもビギナークラスの開催は必須と云ってよいでしょう。

ビギナー講習の開講にあたっては、クラブメンバーの理解と協力が必要です。なぜビギナー講習をやるのかについてクラブメンバーの合意が不十分なままでスタートすると、会員の中には開講中は初心者の手をしなければならず、自分自身の楽しみを犠牲にすることを嫌う気持ちを生じ、折角のクラブの雰囲気も損なうことになりかねません。新しい仲間を迎える気持ちの一つにすることからビギナークラスはスタートします。

目 次

1. ビギナーを集める
 どのように募集するか
 2. 開講
 指導で気をつけなければいけないこと
 エンジェルの協力について
 3. 卒業式(修了式)とDOSADO(初心者歓迎)パーティーデビュー
 意義ある修了式に、DOSADO(初心者歓迎)パーティーでの先輩の役割
 4. その他注意すること
 男性役、ファッション、マナー等
- 終わりに

1. ビギナーを集める

まずはどのような手段でビギナーを集めるかに工夫をこらしましょう。可能な限りいくつかの手段を組み合わせるを実施しましょう。

【クチコミ】

なんといっても会員の身近の知人・友人を誘うというクチコミがもっとも簡単で、有効な手段あり、誘われる方も知り合いがいるということでクラブに来やすいのですが、誘う際に、未経験者にSDの楽しさを伝えることは、かなり難しいことです。事前に携帯など情報機器などやS協発行のチラシを見せたり、実際に会場に来てもらったりしましょう。

お誘いの手紙を送るのも一つの方法です。

【チラシ配布】

チラシ配布も有効な手段ですが、説明だけで楽しさをわかってもらうのは難しいことです。S協発行のパンフレットやチラシデザインコンテスト作品を活用したり、自クラブ用に作成しましょう。

ビジュアルを工夫すること（なるべく楽しそうに踊っている写真）と、キャッチコピーにアイデアをこめることが大事です。

SDを知っている人は少ないので、「SDとは」を説明するより、SDをやると何が楽しいのかを伝えましょう。

【広告】

市や区の広報紙やミニコミ紙やS協ホームページなどを利用しましょう。

費用も安く、一度に多数の人に伝えるには便利な方法ですが、字数に制限があるので、伝えられる情報は極度に少ないのが難点です。

【ポスター】

使用する会場や、スーパー、駅など様々な場所で人目に触れることが可能です。

2. 開講

【受付】

会場に初めて来る人は、不安な気持ち一杯です。入口では、まず入り易い雰囲気を作りましょう。気軽に声をかけ、会場内に案内します。できれば今後の連絡のために名前、住所、電話番号など受付で記入していただくのと良いのですが、個人情報を知らせることに抵抗を感じる人もいますので、無理強いはいしないことです。

【講習開始】

コーラーは、みんなに挨拶をし、コーラー自身を紹介しましょう。みんなが快適にすごせるように、できることは全てやること。大部分の人（SDをどうやるかわからな

い人)は、初対面の他人と肉体的接触をすることに慣れていないだろうということを忘れないこと。始めの何レッスンかの間は、彼らの安全圏を侵すように見えること(例えばイエローロックのような)はやってはいけません。

ビギナーはSDをどうやるのかを学びにきているのです。コーラーの最初の仕事は、彼らがグループの仲間と感じるようにすることであり、それはコーラーの双肩にかかっています。

最初のレッスンは最も大事です。SDを好きになるかどうか、ビギナークラスを続ける意欲を持たせられるかは全て最初の日にかかっているのです。

会員がコスチュームを着用するか、しないかは議論が分かれるところです。初心者からみれば「異様(?)」に見えるコスチュームをいきなり見せることで、引いてしまうことを懸念する声があります。一方では素敵なコスチュームをいつか自分も着ることが出来るということでSDを覚える意欲に役立つとする意見もあります。自分のクラブではどうすべきかは、各クラブで決めることです。

では最初の日、コーラーはどんな格好をすべきでしょうか?受講生やダンサーがどんな格好をしようとも、コーラーは常にコーラーらしい格好をしているべきです。ダンサーにとってコーラーは常に模範であるべきです。きちんとした格好をせずに、信頼を得ることはできません。

【エンジェルについて】

ビギナー講習開催中にエンジェルとなる会員は重要です。エンジェルは先輩ダンサーとしてビギナーの見本であり、コーラーの指導で行き届かない部分を補助する役割を負っています。したがってエンジェルは動作の定義を十分に習得していることが必要です。ビギナークラスをきっかけに、これまで女性役だった会員が男性役をやってみようという場合は特に要注意です。自分が間違っ、かえってビギナーを混乱させることがないように気をつけましょう。

【プログラムの作り方】

コーラーはTeaching Orderをあらかじめ作成し、会員に提示しておくのが良いでしょう。Teaching Orderは、コミュニティー25^{*1}又は、TAIKENプログラムから始め、その段階が終了したら残りの動作を教えましょう。順番は自分なりに教え易い順番をアレンジしてもよいですが、ビギナーの理解度を確認しながら次の動作に進めることが重要です。

(*1コミュニティー25、TAIKENプログラムは、S協ホームページ参照のこと)
今日新しく教える動作は、ある人にとっては来週も新しいことかもしれないことを銘記すべきです。何故なら

- コーラーが何かを教えたとしても、彼らが覚えたとは限りません。
- コーラーが何かを説明したとしても、彼らが理解したとは限りません。
- 彼らが今日覚えたとしても、来週来たときに思い出さずとは限りません。

○彼らの耳に「聞こえた」としても「聴いて」いないかもしれません。

【指導にあたって注意すること】

開講にあたって無料体験会をするかどうかは、そのクラブの判断です。

ビギナーは何もわからないことを前提に、辛抱強く繰り返し説明すること。ただし最初はダンサーネーミングなど口頭説明が多くなる傾向がありますが、なるべく講習生を動かしてリズムに乗って歩くことを覚えさせましょう。

動作の説明は、最初はスタンダードアプリケーションに限定した方が良いでしょう。ビギナーは、初めて聞く言葉や初めて行う動作に混乱を覚えていると思って下さい。まして高齢者はなおさらです。右手から始める動作は左手からもできることや、男女の立つ位置が逆であってもできることがあるというのは、それぞれの動作は定義によって成り立っていることを理解するようになってから教えるても遅くはありません。

「見る」ことで学ぶ人、「読む」ことで学ぶ人、「聞く」ことで学ぶ人等、人はいろいろな方法で学ぶものであるということに留意しましょう。しかし全ては「繰り返し」から学ぶのです。辛抱強く、繰り返し、繰り返しして教え、理解させてから次の動作の説明に進みましょう。焦りは禁物です。

「見る」

「一枚の絵は千の言葉に優る」という言葉があります。モデルダンサーが定義に従ってゆっくりと動いてみせれば、ダンサーはどうすればよいかわかります。

モデルあるいはデモンストレーションのメンバーは慎重に選ぶ必要があります。

動作はバリエーションなしに定義通りに動かなければいけません。

デモはゆっくりと一つ一つの動きを示しながら動きましょう。もちろんスタイリングも忘れずに教えること。最初から正しく教えること。

一旦スタイルが出来上がってから直すのは容易ではありません。

「読む」

テキストも有効です。ダンサーは各講習の前後に読むことを勧めましょう。特に復習は理解を深めるために有効です。

「聞く」

コーラーの言葉による動作の説明が完璧であっても、ビギナーは簡単に忘れてしまうものです。

ビギナーはベテランダンサーのように言葉に反応して機敏には動けないものなのです。スクエアダンスを教えるということは、ダンスを教えるだけでなく、新しい言葉を教えることでもあります。

「コールを聞いて動け」というのがダンサーに教えることの全てですが、聞く技術を向上させるには長い時間がかかります。最初は、ダンサーが動く直前に簡単な言葉で説明（CUE）することを試みるとよいでしょう。そして動作をする際

にCUEができるだけ助けになるようにすること。そしてCUEがなくても動作が楽に出来るようになるまで繰り返すこと。

動作の説明および指示はコーラーだけが行います。動きの悪いまたは動きの遅いビギナーに、セットの中のベテランダンサーが言葉で指示を与えるのは、親切なようでいて、かえってコーラーの次の指示を聞き逃し、混乱させることもありますので注意しましょう。

「繰り返し」

見ているだけではSDは覚えられません。実際にフロアで動いてみなければだめです。コーラーのコマンドに反応して動けるようになるには、長い時間と多くの繰り返しが必要です。意識しなくてもコールに身体が反応するようになるまで、十分に時間をかける必要があります。繰り返し、繰り返すしかありません。

全員が同じ早さで覚えるわけではありません。他の人より覚えるのが遅い人がいることは、ごく当たり前です。卒業にこだわって急がせる必要はありません。レッスンは楽しくやるべきです。レッスン期間中には楽しい日も楽しくない日もあるでしょう。誰も何も覚えられないように見える日もありますが、そんな時はちょっと易しい「楽しさ」を入れた方がいいでしょう。レッスンの日程を早くするか、遅くするかはコーラー次第です。

「挫折」がクラスの最大の敵です。新人ダンサーは何とか成功したいと思っています。何度も教え直さなくてはならないと思ったらそうすべきです。そして全員が一緒に進歩する必要があります。

ダンサーだけでなく、講師の挫折もあります。もし挫折感が蓄積しつつあるのを感じたらSTOP—休憩—再開の理由をみつけることです。クールダウンのチャンスを与えましょう。

毎回「ダンス」をするように努力しましょう。動作を学ぶレッスン期間を通じてみんなダンス経験を楽しむべきなのです。

【動作を教える】

- 1) まず、教えようとする動作に適切な体形 (Formation) を作れるようなところまで、ダンサーを踊らせます。
- 2) ダンスをストップする。
- 3) ダンサーにこれから教えようとする動作の名前を告げる。
- 4) 動作を明快に説明する。できればベテランによるデモを見せる。
- 5) 一步一步ダンサーに動作をさせる。
- 6) ところどころにCUEを入れながらウォークスルーを何度か繰り返す。
- 7) 音楽と一緒に動いてみる。
- 8) 必要なら5～7を繰り返す。(S協ホムページ:ビギナー指導マニュアル参照)
- 9) いくつかの動作の組み合わせに今の動作を混ぜてやってみる。

この場合、位置を変えたり応用動作を入たりする必要はありません。

【ダンサーを褒めること】

指導に際して最も重要な武器は「褒める」ことです。コーラーが誰かから「なんてあなたは上手にコールするんだらう！」といわれたらどんなに嬉しいか考えてみましょう。この事実は反対の場合も変わりません。ダンサーにとっても同じことなのです。たとえ進歩が少ししかなくてもダンサーの背中を叩いてやる（褒める）ことを忘れてはいけません。コーラーが拍手喝采を喜ぶように、彼らも褒められたら嬉しいのです。

「褒める」ことは踊りの技術の進歩だけに限りません。SDを始めたことで、「笑顔」が多くなった、「姿勢」が良くなって若く見えるようになった、「着てくるもの」のセンスが良くなった等など、全てがSDを続けるためのモチベーションにつながります。「叱る」等もってのほかです。ダンス技術において劣るビギナーといえども、社会的にそれぞれが様々な経験を積んできた人達であることをわきまえて下さい。

3. 卒業式(修了式)と DOSADO (初心者歓迎) パーティーデビュー

数々の困難を乗り越えて卒業に漕ぎつけたビギナーにとって、晴れがましいデビューの場を大事にしましょう。クラブメンバーが心からビギナーを歓迎することを伝えましょう。ディプロマ（修了証）は日本フォークダンス連盟発行のものがありますが、工夫をこらした手作りも良いのではないのでしょうか。卒業式は、ビギナーにとっては初めての「パーティー」です。折角の場がビギナーの挫折につながることをないよう、コーラーは易しくても楽しいコールをこころがけましょう。ビギナーにとってはこれまで学んできたことの総復習であると同時に、新たな「社交性」を身につける場でもあります。

ドーサードーパーティーは、同じスクエアダンスを楽しむ、いくつかのクラブからなる組織としての行事であり、ビギナーにとってはスクエアダンス界への社交界デビューの場でもあります。しかし知らない人達と、聞いたことがないコーラーで、踊ることは、果たして自分の覚えた技術がどこまで通用するか不安で一杯の、緊張の場でもあります。間違っても気にしないパーティーであること、会場まで一緒に行くことなど、ベテラン会員はこうした不安をなるべく和らげるよう励まして下さい。

4. その他注意すること

【男性役】

圧倒的に女性が多いこの世界ですから、誰かが男性役になる必要があります。ビギナーのうちから男性役を与えて受講することもあるでしょう。またはベテラン会員が男性役をかってでる場合もあります。いずれにしても男性(役)は女性を優しくリードすることも講習の内に含めましょう。また男性役のタスキはセットの中の他の人およびコーラー

のために着用するものですから、目印のために太目（できれば幅3cm以上）で、コスチュームと違う系統の色であることが望ましいと思います。

【ファッション】

最初の日からコスチュームをつけるかどうかはいろいろと議論があります。あのコスチュームを見たら、ビギナーはひいてしまって来なくなるかもしれないので、普通の恰好で始めるべきだという理屈もあります。しかしコスチュームは水泳における水着や、野球におけるユニフォームと同じでSDを踊るのにふさわしいとして共通のものになっています。したがっていつかは見せることが必要であり、修了式には、できればクラブコスチュームをつけて仲間になったことを認識してもらいべきではないでしょうか。

いつ、その時期を持つかはクラブで議論してきめるべきであると思います。

【SDのマナーと習慣を教えることも忘れないこと】

8人が楽しく踊るためには、いろいろなマナーや習慣があります。一度に伝えると動作を覚えるのに一生懸命なビギナーは混乱したり、規則だらけになっているような印象を与えたりしてしまうおそれがありますので、適宜選んで伝えましょう。一例を下記に掲げます。

- 1) 最も近いセットに入ること。他のセットに入ろうと通り過ぎてはいけません。
- 2) 緊急のことがない限り、セットを離れてはいけません。
- 3) SDの前、最中はアルコール禁止。
- 4) 他のメンバーの間違いに気がついても注意してはならない。それはコーラーの役目です。
- 5) 音楽が鳴ったら早くセットを作りましょう。
- 6) 1チップ終わったらお互いに感謝の挨拶をすること。そしてコーラーの「休憩！」という声がかかってからセットを解散すること。
- 7) 身だしなみに気をつける。SDは身体が接触する動作ですから、身体および着る物に配慮しなければなりません。

終わりに

巣立ったばかりのひよこダンサーは、技術・経験とも未熟です。しかし、スクエアダンスの楽しさを知ったビギナーは、次の新しい仲間をつれてくるかもしれません。そして今後のあなたのクラブの発展を支える大事な仲間でもあります。

長い講習期間はビギナーにとっても、ベテラン会員にとっても辛抱が続く期間ではありますが、次への発展のために有意義な期間とすることが出来るようお互いに努力していきましょう。



編集： 一般社団法人日本スクエアダンス協会
人材育成委員会

委員長 中村 禮子

委員 井上 忠志

委員 武田 好史

委員 関口 正夫

委員 岩原 富雄

委員 若松 眞紀子

発行 一般社団法人日本スクエアダンス協会

2012年3月 初版発行

2022年3月 PDF版発行（一部改訂）